

令和8年7月22日

事業報告

講座名	令和8年度やまぐちキッズスクール 第2回
日時・場所	7月4日（土）YMfg維新セミナーパーク
参加者数	参加者：17組44人（子ども21人、大人23人） 学生スタッフ：7名

1 概要

本事業は、県内の4歳～小学3年生およびその保護者を対象とする全3回の体験学習事業である。下記を目的とし、7月4日に第2回目を実施した。なお本事業には県内の大学生が学生スタッフとして参加し、子供の活動をサポートする。

<目的>

生命や自然を大切にする心や好奇心、探究心や創造力を高めるきっかけにするとともに、興味、関心の共有・表現を通して、他者を理解し、互いを尊重し合う気持ちを育む。

(1)10:00～11:00

アイスブレイク（親子でできる運動遊び） 講師：幼児教育アドバイザー 青山 翔 氏

初めの1時間はアイスブレイクとして、山口大学教育学部講師で幼児教育アドバイザーの青山 翔 氏をお招きして、「自宅でできる親子運動あそび」（以下運動あそび）を教わった。運動あそびとは、体を使った簡単な遊びで、例えば、親が膝を曲げたところに子どもが立ち、足を支えてもらいながら手を広げて飛行機のポーズをする「ひこうき」や、親が高いところや低いところなど、いろいろな位置に手のひらを差し出し、そこに子供がタッチする「タッチ&タッチ」など、親子でスキンシップをしながら楽しめるたくさんの遊びがあった。親子ともに笑顔で楽しんでいる様子が見られ、親子の絆が深まる大変良い時間となった。

(2)11:00～15:00

夏のワクワク実験！ 講師：山口大学教育学部

11時から、山口大学教育学部の学生の皆さんを講師に招いて、暑い夏にぴったりの、ひんやり気持ち良いいろいろな実験を教えてもらった。

前半は親子で一緒に、風船を叩いたら変化する実験や、尿素を使った保冷剤のようなものを作る実験を行った。

また後半は、子どもたちがグループに分かれて、3つの実験をローテーションで回って体験していった。一つは、折り紙に洗剤のついた筆で絵などを描き、一旦乾かした後水につけたら、また描いたものが浮き出てくるという「ふしぎな水うらない」という実験、二つ目は、アルミホイルの上にホワイトボードマーカーで絵を描き、それをゆっくりななめに水に入れたら、描いた絵だけが剥がれて水に浮くという「水にうく絵」、そしてもう一つが、片栗粉と水を良く混ぜたものに、ゆっくり手を入れるととろとろと手から落ちるのに、力を入れてドンと叩いたり、力強く足踏みをする、ギュッと固くなるという、「ダイラタンシーをつくろう」の実験だった。

家でなかなかしないような実験をいろいろ体験し、それを楽しむだけでなく、なぜそうなるのかということまで丁寧に説明され、子どもにとってためになる有意義な時間となった。

2 写真

